

第77回 医学教育セミナーとワークショップ



2020年 10月 2日(金) ~ 4日(日)

eWS-1 10月2日(金)13:00-15:00

TL 模擬患者オンライン大交流勉強会

企画：藤崎和彦・川上ちひろ・早川佳穂 (MEDC)

eWS-2 10月3日(土)9:00-11:00

A 多職種連携を学ぶ学生の評価を考えよう

企画：園井教裕 (岡山西大寺病院)、今福輪太郎 (MEDC)、春田淳志 (慶應義塾大学)
後藤亮平 (筑波大学)

eWS-3 10月3日(土)12:30-14:30

TL 外国人患者とも「やさしい日本語」でコミュニケーション

企画：武田裕子 (順天堂大学)、岩田一成 (聖心女子大学)

eWS-4 10月3日(土)15:00-17:00

A 動画・音声付臨床問題 & eラーニング教材のつくりかた

企画：松山 泰・浅田義和・岡崎仁昭・石川鎮清・川平 洋 (自治医科大学)

eWS-5 10月4日(日)9:00-11:00

A Post-CC OSCE の大学独自課題を作成しよう

企画：岡崎史子 (東京慈恵会医科大学)、石川鎮清 (自治医科大学)
原田芳巳 (東京医科大学)

eWS-6 10月4日(日)10:00-12:00

TL エビデンスに基づく臨床コミュニケーション教育

～何をどのように教えればいいのか?～

企画：菊川 誠・金澤剛志 (九州大学)、橋本忠幸 (橋本市民病院)
岡村知直・小杉俊介 (麻生飯塚病院)

eWS-7 10月4日(日)12:30-14:30

CD 卒前教育におけるマインドフルネスプログラム

企画：西屋克己・西垣悦代 (関西医科大学)、谷口純一 (熊本大学病院)
三好智子 (岡山大学)、土屋静馬 (昭和大学)

eWS-8 10月4日(日)15:00-17:00

ML IR活動の失敗と成功の共有 ～第『2.5』回医療系IRミーティング

企画：恒川幸司 (MEDC)、中村真理子 (東京慈恵会医科大学)、岡田聡志 (千葉大学)
浅田義和 (自治医科大学)、菰田孝行 (東京医科大学)、唐牛祐輔 (関西医科大学)

申込締切

2020年 9月22日(祝)

定員を設けております。申込順にて受け付けいたしますので、ご了承ください。

なお、当日参加は受け付けません。「ZOOM (Web会議システム)」を利用します。

今後の改善の参考にするため、録画いたします。ご理解とご協力をお願いいたします。

第78回
岐阜

2021/1/22-23

第79回
岐阜

併催

第22回教務事務職員研修

2021/5/21-23

第80回
聖隷浜松

2021/秋

※今後の社会情勢によっては、開催方法や会場の変更があるかもしれません



WS-1 模擬患者オンライン大交流勉強会

TL

企画： 藤崎和彦・川上ちひろ・早川佳穂（MEDC）

概要： 模擬患者大交流勉強会は、これまで岐阜、東京、徳島、札幌、広島、千葉、沖縄、博多、埼玉、香川、兵庫、岡山、信州と全国各地で行われてきました。今回はコロナウイルス感染症への対応のため、初のオンライン交流会を開催します。模擬患者参加型教育は発展し続け、医療者教育においてさまざまな場で模擬患者が活躍しています。さらに、医学科においては共用試験実施評価機構のPost CC OSCEがコロナの影響で遅れているものの正式実施目前となり、ますます模擬患者への需要が高まってきている状況です。従来の医学、歯学、薬学だけでなく、看護やリハビリ教育においてもコアカリキュラムに基づく教育が議論されるようになり、コミュニケーション教育も一層の広がりが見られるようになってきました。またwithコロナ・afterコロナで、オンライン診療が取り入れられるであろう医療の未来において、模擬患者さんの活動もまた幅が広がってくるのではないのでしょうか。みなさん、このような時代だからこそ、オンラインを通じて交流を深めましょう。

事前課題： 日常の模擬患者活動の中で、困っていることや悩んでいることなど、またオンラインでの活動などに関して、話し合いたい内容を考えてきてください。

対象： 模擬患者参加型教育にかかわる模擬患者、教員、指導者、学生、研修医、医療スタッフ

定員：60名



WS-2 多職種連携を学ぶ学生の評価を考えよう

A

企画： 園井裕裕（岡山西大寺病院）、今福輪太郎（MEDC）、春田淳志（慶應義塾大学）、後藤亮平（筑波大学）

概要： 超高齢社会となった日本は、医療や介護を含む地域包括ケアの場で多職種連携が強く求められ、卒前教育の段階から円滑な多職種連携が実践できる人材育成は急務である。一方で、多職種連携を学ぶ学生への評価は360度評価などあるが、評価者の主観による評価になりやすいなど課題は多い。こういった課題は学生に対する評価者のフィードバックを困難にしていることが想定される。そこで、本ワークショップでは卒前教育の高学年を対象とした多職種連携教育実習に関するシナリオに基づいた学生を評価するワークを通じて、多職種連携の場で活躍出来る人材育成に寄与するための評価方法について、考えを深めていきたい。その結果、多職種連携教育における学生への評価を見直すきっかけとなり、卒前の多職種連携教育の充実化に繋がると考える。

対象： 多職種連携を学ぶ学生の評価に興味がある方

定員：20名



WS-3 外国人患者とも「やさしい日本語」でコミュニケーション

TL

企画： 武田裕子（順天堂大学）、岩田一成（聖心女子大学）

概要： 本WSでは、外国人患者さんにもわかりやすい「やさしい日本語」を用いたコミュニケーションを体験して頂きます。「やさしい日本語」は、阪神淡路大震災をきっかけに注目され広まりました。一文を短く、オノマトペを使わないなど、ちょっとしたコツで話せるようになります。今や、日本に住む在留外国人は300万人近くに上りますが、言葉の壁は医療機関へのアクセスを困難にしています。外国人診療＝英語と考えられがちですが、実際は「やさしい日本語」なら理解できる方は8割を超えます（英語は4割程度）。「やさしい日本語」は、また、高齢者や障害のある方、子どもたちなど、言葉の理解や聞こえに不安のある方々にも伝わりやすくできています。医療系学生のコミュニケーション力向上と共に、困難を抱える方々への理解を深めるきっかけにもなります。オンラインでの開催のため制約がありますが、実際に日本語を母語としない方とのロールプレイも行う予定です。

対象： 医療系学部学生・教員をはじめ、外国人診療に関わる可能性のある方、コミュニケーション教育・模擬患者養成を行っている方・模擬患者ボランティアの方

定員：20名



WS-4 動画・音声付臨床問題&eラーニング教材のつくりかた

A

企画： 松山 泰・浅田義和・岡崎仁昭・石川鎮清・川平 洋（自治医科大学）

概要： 2015年の厚労省医師国家試験改善検討部会において、国試にコンピュータ制を導入し、静止画のみならず、動画や音声を活用した臨場感の高い臨床問題を出題する将来構想が議論されました。動画や音声を活用した臨床問題は、工夫次第で実技試験で測定される能力もある程度まで評価できます。何よりも会場に多数の物品を持ち込んだり人員を配置したりする負担を回避できます。また、問題を基盤としたeラーニング教材は、臨床実習の補完や代替になる学習コンテンツとなり得ます。今回のCOVID-19は「三密」が生じやすい実技試験や臨床実習の脆弱さを知らしめました。パンデミックに限らず今後起こり得る不測の事態に向けて、代替となる試験方法や学習コンテンツを準備する必要があります。このワークショップでは皆様と一緒に動画・音声付臨床問題を作成します。また問題をeラーニング教材へと発展させるノウハウを伝授します。

対象： 医歯薬・看護学等の卒前・卒後教育で試験問題作成に携わっている方

定員：18名



WS-5 Post-CC OSCE の大学独自課題を作成しよう

A

企画： 岡崎史子（東京慈恵会医科大学）、石川鎮清（自治医科大学）、原田芳巳（東京医科大学）

概要： 共用試験実施評価機構のPost-CC OSCEの課題では最も重要で基本的な行為として、医療面接、身体診察、臨床推論、プレゼンテーション等を評価するための課題を作成しています。しかし、そもそも臨床実習後OSCEをどのように設計するのがよいか他大学の現状を知りたい、臨床実習後OSCEで機構で測る能力以外を測定したいがよいアイデアがない、課題を他大学と共有したい、コロナ時代に実施可能で卒業時の評価として妥当な課題の案はないものか？など様々なニーズが聞かれます。課題を作成する労力は相当なもので、討論しながら課題を作成し、共有することができれば大学の教育資源がよりよく活用されると思いますこのWSを実施します。

対象： Post-CC OSCEにおいて、大学独自課題の作成に苦慮されている教員の方々

定員：35名



WS-6 エビデンスに基づく臨床コミュニケーション教育

～何をどのように教えればいいのか？～

TL

企画： 菊川 誠・金澤剛志（九州大学）、橋本忠幸（橋本市市民病院）、岡村知直・小杉俊介（麻生飯塚病院）

概要： 日本の卒前医学教育において、模擬面接を始めとしたコミュニケーション教育が定着してから久しい。これについては各所で改善の努力が見られ、Breaking Bad News等のより高度な面接の教育も一部では始まっている。一方で、卒後のコミュニケーション教育については各臨床研修病院に任せられているのが現状であり、一部の先進的なコミュニケーション教育を行っている施設以外では、多くの指導医たちは自らの経験を頼りにコミュニケーションの教育を行っているものと推察される。ヨーロッパ各国では全ての臨床教育に携わる医療職が、コミュニケーション教育の方略について学ぶ事が一般的に行われており、各医療者養成機関や団体がワークショップなどを開催している。これらのコースで紹介されているEvidenceに基づいた臨床コミュニケーションの教育法について、日本の伝統文化を考慮し臨床現場で応用できる形にしたものを、workshopを通じてご紹介し、実際にご自身の環境でどのように応用できるか樹上計画を立てて頂く。

なお昨今の状況を鑑み、遠隔での教育の行い方についてのTipsもご紹介する予定である。

対象： コミュニケーションを指導する立場にある医療従事者・医療系教員

定員： 30名



WS-7 卒前教育におけるマインドフルネスプログラム

CD

企画： 西屋克己・西垣悦代（関西医科大学）、谷口純一（熊本大学病院）、三好智子（岡山大学）、土屋静馬（昭和大学）

概要： マインドフルネスプログラムが、医師の感情疲労の症状を改善したと報告され、2017年の医学教育セミナーとワークショップで医療現場におけるマインドフルネスが紹介されました。2019年には「マインドフルネスの理論と実践～マインドフルになろう！～」と題して、2日間のワークショップを通して医療や教育など様々な角度からマインドフルネスを学びました。近年、教育現場において学生自身のストレスマネジメントを目的として、マインドフルネスプログラムを取り入れられ始められています。現在のコロナ禍の中で、学生自身のストレスをコントロールしレジリエンスを高めていくことは非常に重要なことです。今回は学生教育にフォーカスをあて、マインドフルネスの基本を学び、各大学の教育実践報告、総合討論を通して卒前教育におけるマインドフルネスプログラムの実践について議論していきます。

対象： 医療者教育におけるマインドフルネスに興味のある教員等

定員： 15名



WS-8 IR活動の失敗と成功の共有 ～第『2.5』回医療系IRミーティング

ML

企画： 恒川幸司（MEDC）、中村真理子（東京慈恵会医科大学）、岡田聡志（千葉大学）、浅田義和（自治医科大学）
菟田孝行（東京医科大学）、唐牛祐輔（関西医科大学）

概要： 分野別評価が実施されるに従い、ここ数年にて医療系学部には次々とInstitutional Research（IR）部門が立ち上がり、各大学のIR実践が報告されてきている。企画者らは数年前から医療系IRに関するワークショップを実施しているが、IR実践の進捗に従って、参加者のニーズがより具体的で実際的なことを実感している。そこで、今回は各大学がIRを実践していく中で、どのような阻害要因・促進要因があったか、特に『Post コロナ/With コロナの時代のIR』という今日的な話題を絡めつつ、その解決策を考えたい。また、IR実践の結果として教育改善が行われたか、あるいは行われなかったか、またその意思決定の要因は何だったのか、というInstitutional Effectiveness（IE）の領域まで踏み込んで議論したい。

対象： IR（Institutional Research）を業務とする教員・職員、IRに興味のある方

定員： 30名

参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2020年 9月 22日(祝)

参加費： 2,000円 学部学生無料

(別途システム利用料として220円がかかります)

参加費のお支払いについては、インターネットからお申し込み後、MEDC事務局からの自動返信メールにてご案内いたします。

参加費は、当日配布します資料ならびにセミナーワークショップの報告が掲載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。

開催方法： ZOOM（Web会議システム）

今後の改善の参考にするため、ワークショップ等を録画いたします。

ご理解とご協力をお願いいたします。

今後の社会情勢によっては、開催に変更があるかもしれません。